

# 鳥インフルエンザに関する

## Q&A

今年1月に山口県の養鶏農場で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、その後京都・大阪などであいついで発見されました。鶏肉・鶏卵等の安全性などについて、Q&Aの形でご案内します。



**Q 1** 鶏肉・鶏卵は今までどおり食べられるの？

この病気は、人畜共通感染症の一つで、まれにニワトリなどと直接接触した人への感染が報告されていますが、ニワトリの卵や肉を食べて人に感染した例は、世界的にも報告がありません。

わが国では、鳥インフルエンザは、家畜伝染病予防法上、

家畜伝染病（法定伝染病）として位置づけられており、発生した場合は、鳥の間でのまん延防止措置が実施されますので、感染鳥などが食品として市場に出回ることはありません。

鶏卵を「生」で食べることで健康を損なうおそれがあるとの報告はこれまでありませんが、不安な方は、加熱（WHOの食中毒防止のための加熱条件、中心部70℃、瞬間）することをおすすめします。

鶏肉は十分加熱して食べてください。未加熱又は加熱不十分のまま食べることは、食中毒予防の観点からおすすめできません。

**Q 2** ペットのニワトリや小鳥を飼っていますか、大丈夫ですか？

鳥インフルエンザがニワトリやアヒルの他にも、色々な種類の鳥に感染することが知られていますが、国内で鳥インフルエンザが発生したために、これまでペットとして家庭などで飼育していた鳥が直ちに危険になることはありません。ただし、一般的に、鳥に限らず動物を飼う場合は、

動物に触った後は必ず手を洗うこと、糞尿は速やかに処理して動物のまわりを清潔にすることなどを心がけることが重要です。

また、ウイルスを運んでくる可能性がある野鳥が近くに来れないような飼いやが必要で、飼育中の鳥を野山に放したり、処分するようなことはせず、冷静に対応するようにお願いします。

**Q 3** 飼っていた鳥が死んでしまった場合はどうするの？

鳥は生き物ですから、人と同じようにいつかは死んでしまいます。そして、その原因も様々です。鳥が死んだからといって直ちに鳥インフルエンザを疑う必要はありません。鳥インフルエンザにかかったニワトリは、次々に死んでいくということが知られていきますので、原因が分からないまま、鳥が次々に連続して死んでしまうということがない限り、鳥インフルエンザを心配する必要はありません。

原因がわからないまま、鳥が連続して死んでしまった場合には、その鳥に素手で触つ

たり、土に埋めたりせずに、なるべく早く、お近くの獣医師、家畜保健衛生所、役場農林水産課林務畜産係、北海道海鳥センターへご相談ください。

**Q 4** 野鳥が死んでいるのを見つけた場合はどうするの？

野鳥も飼われている鳥と同じように、様々な原因で死亡します。飼われている鳥と違って、エサが取れずに衰弱したり、環境の変化に耐えられずに死んでしまうこともあります。野鳥が死んでいるのを見つけた場合には、死亡した鳥を素手で触らずに北海道海鳥センターへ相談してください。

**Q 5** 羽幌町の問合せ先は？

羽幌町でも飼っているニワトリなどの鳥類や野生の鳥たちが死んだ時などの問い合わせ先を設けました。

●ニワトリ等の家畜は  
役場農林水産課林務畜産係  
☎ 1211 内線344

●野鳥は  
北海道海鳥センター  
☎ 2080

▶より詳しい情報をお求めの方は、下記のホームページを参考にしてください。  
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1f.html>  
農林水産省 <http://www.maff.go.jp/tori/index.html>  
内閣府 食品安全委員会 <http://www8.cao.go.jp/shokuhin/>  
独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 動物衛生研究所  
<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/poultry/toriinflua.html>